

N

F

C

NFC CALENDAR

大ホール(2階)

よみがえるフィルムと技術

Rediscovering the Beauty of Film and Film Technique

2017年5月13日(土) - 5月21日(日)

主催: 東京国立近代美術館フィルムセンター

特別協力: 一般社団法人 日本映画テレビ技術協会

ANNIVERSARY
2017
70th
MPTE

5月の休館日:

月曜日, 5月1日(月) - 5月12日(金)

大ホール

各回の開映後の入場はできません。

定員=310名(各回入替制)

料金: 一般520円 / 高校・大学生・シニア310円 / 小・中学生100円 / 障害者
(付添者は原則1名まで), キャンパスメンバーズは無料

発券=2階受付

- 観覧券は当日・当該回のみ有効です。
- 発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切ります。
- 学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示ください。
- 発券は各回1名につき1枚のみです。

東京国立近代美術館フィルムセンター

National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo



n 長瀬映像文化財団

フィルムセンターは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

よみがえる フィルムと技術



Rediscovering the Beauty of Film and Film Technique

2017

5

NFCカレンダー
2017年5月号

大ホール 上映作品

よみがえるフィルムと技術
Rediscovering the Beauty of
Film and Film Technique

本特集では、一般社団法人 日本映画テレビ技術協会(MPTE)の創立70周年を記念し、フィルムセンターが2015年度から2016年度にかけて復元した日本映画と、同協会の日本映画技術賞や技術選奨を受賞した作品を良質の当館所蔵プリントから厳選して、上映します。

同協会は、戦後間もない1947年5月に映画業界、技術界、学会の有志によって日本映画技術協会として設立されました。その目的として、戦争で停滞した国内の「映画科学技術」の進歩発達を助け、映画文化を高めかつ広めることを掲げ、感光材料、現像、機械、光学、音響、劇場、照明、撮影、美術、映写、小型、規格、用語統一などの委員会を作り、活動を開始しました。ラボと撮影所の技術者を中心に、会員たちは、カラーフィルムの開発やフィルムでの映画技術と表現について研究を重ね、戦後日本映画の復興をリードしてきました。

映画を創るのは人であり、その技術であるように、映画保存もフィルムの特質を熟知した人々とその技術によって支えられています。フィルムでの映画制作や上映が激減した現在でも、アーカイブでは、フィルムを熟知したラボの眼と技術が、フィルム検査からニュープリントの作製、映画復元といった重要な活動で、「映画の真正な姿」を守り続けています。

本特集で、日本映画を支えた撮影、照明、美術、録音など各パートの技術、そして、それらの映画表現とフィルムアーカイブを支えるラボの技術の観点から、フィルムの特性を生かした表現をご堪能ください。皆様のご来場をお待ちしています。

- ◎=監督・演出 ◎=原作・原案 ◎=脚本・脚色
- ◎=撮影 ◎=照明 ◎=美術・舞台装置 ◎=録音
- ◎=音楽 ◎=出演 ◎=解説・ナレーション
- ◎=声の出演
- スタッフ、キャストの人名は原則として公開当時の表記を記載しています。
- 特集には不完全なプリントが含まれていることがあります。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。

NFC&MPTE アーカイブセミナーのお知らせ

期間中、フィルムセンターでは日本映画テレビ技術協会との共催によるアーカイブセミナーを開催します。参加をご希望の方は、下記HPをご確認のうえ、お申し込みください。

<http://www.momat.go.jp/fc/learn/sympo/>

◆日本映画技術賞受賞作品

1 5/16(水)3:00pm

グッドバイ(女性操縦法) [改題短縮版]

(69分・35mm・白黒)

太宰治の未完の遺作を、小国英雄が一本のシナリオに書き上げた作品。新東宝が開発したスーパー・ノイズレス方式の録音が評価され、第3回(1949年度)日本映画技術賞を受賞した(神谷正和らびに新東宝技術課音響整備係)。現存プリントは後年『女性操縦法』と改題して公開された短縮版で、国際放映所蔵のマスターポジからネガを起こして2004年に作製したものである。

1949(新東宝)◎島耕二◎太宰治◎小国英雄◎三村明◎大沼正喜◎下河原友雄◎神谷正和◎鈴木静一◎高峰秀子、若原雅夫、森雅之、清川玉枝、江川宇禮雄、斎藤達雄、霧立のぼる、三村秀子、藤間紫、一の宮敦子、清川虹子

2 5/16(水)7:00pm

煙突の見える場所

(108分・35mm・白黒)

東京・足立区千住にあった有名な「お化け煙突」を背景に、戦争体験を引きずった庶民たちの生活が、厳しくリアリティックに描かれる。無声映画期から活躍する三浦光雄のカメラは、本作でも時間の推移や空気感の描出において傑出している。第7回(1953年度)日本映画技術賞受賞(撮影：三浦光雄)。

1953(スタジオ・エイト・プロ=新東宝)◎五所平之助◎椎名麟三◎小国英雄◎三浦光雄◎河野愛三◎下河原友雄◎道源勇二◎芥川也寸志◎田中絹代、上原謙、高峰秀子、芥川比呂志、関千恵子、花井蘭子、坂本武、田中春男



煙突の見える場所

3 5/17(木)3:00pm

近松物語(102分・35mm・白黒・英語字幕付)

近松門左衛門の「大経師昔暦」を下敷にした、溝口健二の代表作の一つ。室内や夜の場面が多い本作には、日本映画黄金期の技術の粋が凝縮されており、なかでも「劇の内容を適確に表現して演出の命題に完全に応えた」撮影と「清潔と品位と近代的な感覚を示した」照明が高く評価された。第8回(1954年度)日本映画技術賞受賞(撮影：宮川一夫 照明：岡本健一)。

1954(大映京都)◎溝口健二◎近松門左衛門◎依田義賢◎宮川一夫◎岡本健一◎水谷浩◎大谷巖◎早坂文雄◎長谷川一夫、香川京子、南田洋子、進藤英太郎、小澤榮、菅井一郎、田中春男、石黒達也、浪花千栄子、十朱久雄

4 5/17(木)7:00pm

座頭市と用心棒(116分・35mm・カラー)

勝プロが大映京都のスタッフに岡本喜八、三船敏郎を迎えて製作した「座頭市」の20作目。第24回(1970年度)日本映画技術賞を受賞(照明：中岡源権)。スカイライトを横から当てた中国の照明は、葦原と激しい雨滴を立体感豊かに捉えた冒頭のシーンからラストの金砂まで、金色と暗部を際立たせた撮影を支え、金をめぐる人の業という主題の視覚化を実現させた。

1970(勝プロ)◎岡本喜八◎子母沢寛◎吉田哲郎◎宮川一夫◎中岡源権◎西岡善信◎林士太郎◎伊福部昭◎勝新太郎、三船敏郎、若尾文子、滝沢修、米倉斉加年、岸田森、嵐寛寿郎、神山繁、細川俊之、寺田農



近松物語スナッフ(前列左より、溝口健二、宮川一夫、二人の間に岡本健一)

よみがえるフィルムと技術
Rediscovering the Beauty of Film and Film Technique

月	火	水	木	金	土	日	
5月	座頭市と用心棒		古都			11 ジャズ娘誕生 [デジタル復元版] (79分) *研究員トーク	13 時をかける少女 [再タイムング版] (104分) *研究員トーク
	1 グッドバイ 3:00pm (69分)	3 近松物語 3:00pm (102分)	5 忘れえぬ慕情 3:00pm (115分)	7 その場所に女ありて 3:00pm (94分)	12 日本南極探検 [デジタル復元版] 千人針 [デジタル復元版] (計72分) *研究員トーク	9 古都 1:00pm (105分)	
15	2 煙突の見える場所 7:00pm (108分)	4 座頭市と用心棒 7:00pm (116分)	6 世界の動き 第一集 朝鮮エラブの海 7:00pm (計81分)	8 陸軍残虐物語 7:00pm (99分)	11 ジャズ娘誕生 [デジタル復元版] 4:00pm (79分)	10 マッチ売りの少女 他 4:00pm (計77分)	

展示室(7階)

【企画展】

人形アニメーション作家 持永只仁
Tadahito Mochinaga, Puppet Animation Filmmaker
2017年5月13日(土)~9月10日(日)

*月曜日は休室。

主催:東京国立近代美術館フィルムセンター
協力:一般社団法人日本動画協会、日本アニメーション学会、日本アニメーション協会
特別協力:北京電影学院

日本に人形アニメーションという新たなジャンルをもたらした、中国の動画界にも多くの後継者を残した持永只仁(1919-1999)。映画作りに使われた愛らしい人形たちや製作資料、さらに写真や作品映像も交えながら、卓越したクリエイターであり優れた教育者でもあったその生涯に迫ります。

*詳細は当該チラシまたはフィルムセンターのホームページをご覧ください。



『うりこ姫とあまのじゃく』(1956年)人形

【常設展】企画展に併設

NFCコレクションでみる
日本映画の歴史

Nihon Eiga: The History of Japanese Film
From the NFC Non-film Collection
[Captions in Japanese and English]

開室時間=午前11時~午後6時30分(入室は午後6時まで)
料金(企画展・常設展共通)=一般250円(200円) / 大学生・シニア130円(60円) / 高校生以下及び18歳未満・障害者(付添者は原則1名まで)、MOMATパスポートをお持ちの方、キャンパスメンバーズは無料
*()内は20名以上の団体料金です。

*学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示下さい。

*フィルムセンターが主催する上映会をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。

NFC Digital Gallery
NFCデジタル展示室 Digital Gallery
下記ホームページからお入りください
<http://www.momat.go.jp/nc/digitalgallery>

常設展ギャラリートーク
毎月第一土曜日12時より(休室の場合は第二土曜日)
6月3日(5月はお休みします)

トークイベントのお知らせ

下記の日時点で当日の上映作品について15分程の解説を当館研究員が行います。

5月13日(土) 1:00pmの回 上映終了後

5月14日(日) 1:00pmの回 上映終了後

5月20日(土) 1:00pmの回 上映終了後

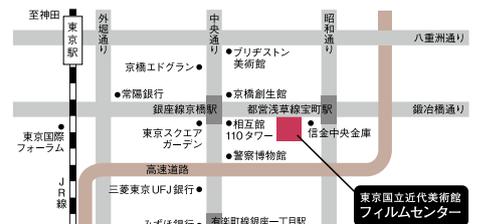
*入場無料

*当日1回目の上映をご覧になった方は、そのままトークイベントに参加することができます。トークイベントのみの参加もできます。

2階受付では、「NFCニューズレター」を販売しています。これは、フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルムアーカイブやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

fiaf

東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分

都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分

東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分

JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ:ハロ-ダイヤル03-5777-8600

NFCホームページ:

<http://www.momat.go.jp/>

図書室カレンダー

赤字は休室日

5月

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6月

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

図書室(4階) 開室=火曜日~土曜日(午後0時30分~午後6時30分/入室は午後6時まで) 閉室=休館日および日曜日・祝日